

個人金融資産動向：2010年第3四半期

宮本 佐知子

■ 要 約 ■

1. 日本銀行『資金循環統計』によれば、2010年9月末の個人金融資産残高は、1,441兆7,865億円（前期比0.2%減、前年同期比0.3%増）となった。資金流出と株式などの評価損が、前期からの残高減少へとつながった。
2. 2010年第3四半期の各金融資産への資金純流出入の特徴は次の通りである。第一に、円高の急速な進行と国内の低金利環境を背景に、対外証券投資や外貨建て預金へ資金が流入した。第二に、定期性預金には資金が流入し、ゆうちょ銀行預金からは資金が流出した。第三に、上場株式からは資金が流出した。第四に、投資信託へは（流入額は前期に比べて減少したものの）資金流入が続いた。資金が流入している投信の共通点は、毎月支払われる高い分配金であり、総じて個人投資家の高分配を求める姿勢が続いている。
3. ゆうちょ銀行の2010年度中間期決算が公表された。2010年9月末時点の預金残高は175兆404億円、2009年9月からの1年間で1兆4,040億円減少した。四半期ごとの預金の動きは季節性要因の影響も受けるが、前年同期差で見ると預金残高の減少幅は2005年以降、縮小が続いている。ただし2010年度下期から定額貯金の集中満期を迎えることから、預金流出額縮小の動きが一旦止まる可能性も考えられる。

I. 2010年第3四半期の個人金融資産動向

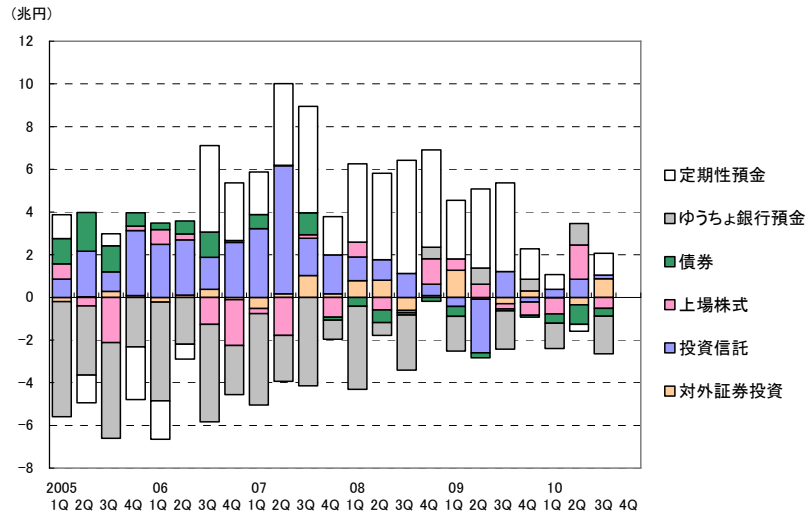
1. 個人金融資産残高の概況

2010年12月17日に発表された日本銀行『資金循環統計』によれば、2010年9月末の個人金融資産残高は、1,441兆7,865億円（前期比0.2%減、前年同期比0.3%増）となった。資金流出と株式などの評価損が、前期からの残高減少へとつながった。

2. 各金融資産の資金純流出入の動向

図表1に2010年第3四半期の主な金融資産への資金純流出入の動きを示した。第3四半期の特徴は次のとおりである。

図表1 各個人金融資産の資金純流出入（四半期ベース）



(注) 定期性預金は総額からゆうちょ銀行預金を除いてある。
 (出所) 日本銀行資料より野村資本市場研究所作成

第一に、対外証券投資へ資金が流入した。円高の急速な進行と国内の低金利環境を背景に、海外証券や外貨建て預金へ資金が流入、外貨預金残高は5年ぶりの高水準に達した。

第二に、定期性預金については、(ゆうちょ銀行以外の)定期性預金には資金が流入し、ゆうちょ銀行預金からは資金が流出した(ゆうちょ銀行預金については後述)。

第三に、上場株式からは資金が流出した。ただし9月の投資信託の資金純増額ランキングでは、日本株ETFがトップになっている(図表2)。

第四に、投資信託へは(流入額は前期に比べて減少したものの)資金流入が続いた。図表2の投資信託の資金純増額ランキングによると、人気を集めているのは通貨選択型投信やREIT型投信である。通貨選択型投信の投資対象資産については、新興国債券やハイイールド債券などで運用するものが中心で、「野村グローバル・ハイ・イールド債券投信」は設定から約半年で残高が1兆円の大台に乗った¹。同時に投資対象の多様化も進んでおり、7~9月期は「日興アシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型」などバランス型のシェアが拡大した他、転換社債に投資するものも登場した²。また、通貨選択型投信の選択通貨については、ブラジル・リアル建てが最も多く、資源国通貨建てと並んで引き続き人気を集めている。ただしブラジル政府は10月、海外からの債券投資に課す金融取引税を2%から6%へと段階的に引き上げ(5日と19日)、為替先物取引の税率も0.38%から6%へと引き上げた(19日)。これを受けて、三菱UFJ投信は「ブラデスコブラジル債券ファンド」

¹ 日本経済新聞「個人マネー債券型投信へ」2010/10/15。

² ファンド情報「第5回売れ筋投信調査(証券/大手銀行/信託銀行編)」2010/11/8。

図表 2 投資信託の資金純増額ランキング (2010年7月～10月)

順位	2010年7月	2010年8月	2010年9月	2010年10月
1	野村グローバル・ハイ・イールド債券投信(資源国通貨コース) 毎月分配型	野村グローバル・ハイ・イールド債券投信(資源国通貨コース) 毎月分配型	TOPIX連動型上場投資信託	野村グローバル・ハイ・イールド債券投信(資源国通貨コース) 毎月分配型
2	短期豪ドル債オープン(毎月分配型)	日興アシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型(ブラジルリアルコース)	野村グローバル・ハイ・イールド債券投信(資源国通貨コース) 毎月分配型	日興アシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型(ブラジルリアルコース)
3	三菱UFJ新興国債券ファンド通貨選択シリーズブラジルリアルコース(毎月分配型)	野村米国ハイ・イールド債券投信(ブラジルリアルコース) 毎月分配型	日興アシュモア新興国財産3分法ファンド毎月分配型(ブラジルリアルコース)	野村米国ハイ・イールド債券投信(ブラジルリアルコース) 毎月分配型
4	野村米国ハイ・イールド債券投信(ブラジルリアルコース) 毎月分配型	三菱UFJ新興国債券ファンド通貨選択シリーズブラジルリアルコース(毎月分配型)	三菱UFJ新興国債券ファンド通貨選択シリーズブラジルリアルコース(毎月分配型)	三菱UFJ新興国債券ファンド通貨選択シリーズブラジルリアルコース(毎月分配型)
5	ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)	短期豪ドル債オープン(毎月分配型)	野村米国ハイ・イールド債券投信(ブラジルリアルコース) 毎月分配型	新光US-REITオープン
6	DIAM J-REITオープン(毎月決算)	ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)	MAXIS S&P三菱系企業群上場投信	短期豪ドル債オープン(毎月分配型)
7	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	通貨選択型エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース(毎月分配)	短期豪ドル債オープン(毎月分配型)	フィデリティ・USリート・ファンド B(為替ヘッジなし)
8	ニッセイ日本インカムオープン	新光US-REITオープン	新光US-REITオープン	ダイワ上場投信ー日経225
9	ダイワ・グローバルREIT・オープン(毎月分配型)	ラサール・グローバルREITファンド(毎月分配型)	フィデリティ・USリート・ファンド B(為替ヘッジなし)	ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)
10	通貨選択型エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース(毎月分配)	ダイワ・グローバルREIT・オープン(毎月分配型)	ブラジル・ボンド・オープン(毎月決算型)	通貨選択型エマージング・ボンド・ファンド・ブラジルリアルコース(毎月分配)

(出所) R&I 資料より野村資本市場研究所作成

の信託財産留保率を引き上げることを発表³、今後のブラジル関連投信への資金動向が注目されている。一方、REIT型投信については、日銀が10月5日にREITの買入れ策を決定しており、安心感が広がったことも足下の資金流入の一因と見られている⁴。

資金が流入している投信の共通点は、毎月支払われる高い分配金であり、総じて個人投資家の高分配を求める姿勢が続いている。

II. ゆうちょ銀行の預金動向

2010年11月12日、ゆうちょ銀行の2010年度中間期決算が公表された。2010年9月末時点の預金残高は175兆404億円、2009年9月からの1年間で1兆4,040億円減少した⁵。四半期ごとの預金の動きは季節性要因の影響も受けるが、前年同期差で見ると預金残高の減少幅は2005年以降縮小が続いており、4～6月期と7～9月期は更に縮小した(図表3)。

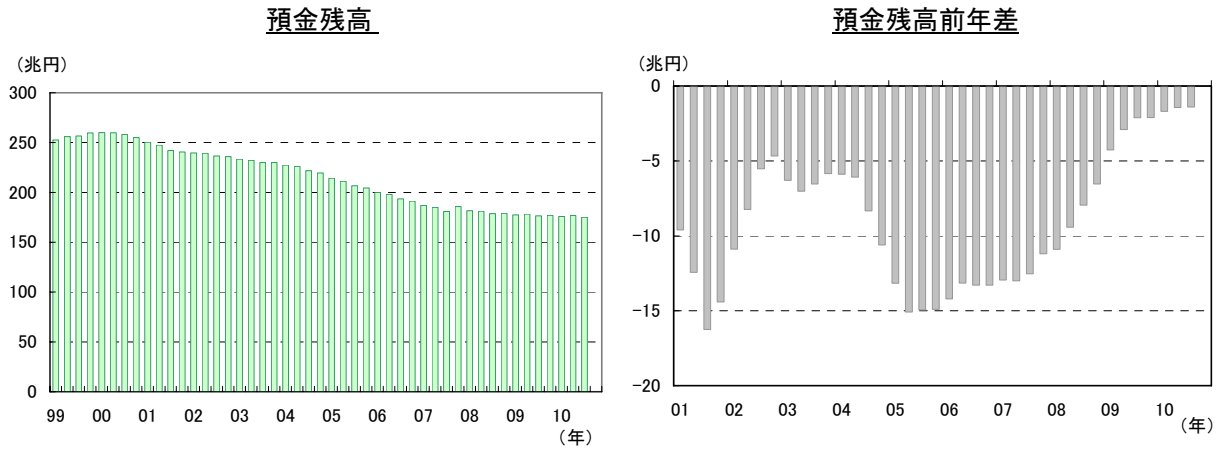
ゆうちょ銀行の都道府県別の預金状況は半年ごとに公表されている。2010年度中間期の状況を見ると、預金残高(流動性預金と定期性預金の合計額)については、2009年9月からの1年間では、全ての地域で預金が減少した(図表4)。また、預金の約7割を占める定期性預金については、同期間に長崎県だけが増加、他の46都道府県では減少した(図表5)。

³ 同社からは10月8日と11月5日に料率変更が発表された。<http://www.am.mufg.jp/text/20101008260345.pdf>、<http://www.am.mufg.jp/text/20101105260345.pdf> 参照。

⁴ 日経ヴェリタス「REIT投信、個人マネーで活況」2010/12/12。

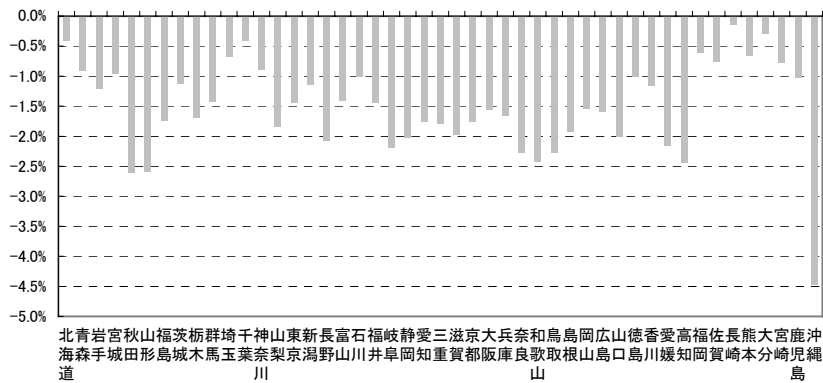
⁵ 未払い利子を除く。

図表3 ゆうちょ銀行預金残高と残高前年差の推移



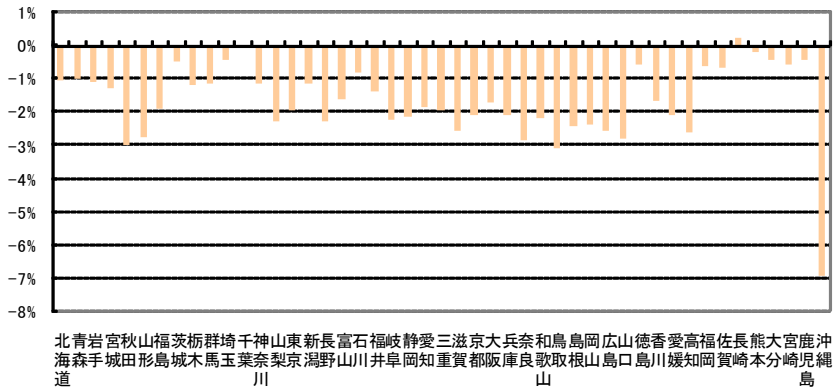
(注) 2007年10月に日本郵政公社は民営化したが、図では民営化前後で振替貯金等を調整してある。
 (出所) ゆうちょ銀行資料、旧日本郵政公社公表資料より野村資本市場研究所作成

図表4 ゆうちょ銀行預金残高の変化率(2009年9月～2010年9月)



(出所) ゆうちょ銀行資料より野村資本市場研究所作成

図表5 ゆうちょ銀行定期性預金残高の変化率(2009年9月～2010年9月)



(出所) ゆうちょ銀行資料より野村資本市場研究所作成

なお、ゆうちょ銀行からの預金流出額は、特に2007年10月の民営化以降は縮小する動きが顕著であるが、2010～2011年度には期間10年の定額貯金を中心とする定期性預金の集中満期を迎える⁶。2010年度については下半期に定額貯金の満期が集中しており、その影響で一旦、預金流出額縮小の動きが止まる可能性も考えられよう。ゆうちょ銀行側は「定額郵便貯金の満期は2010年度下期に本格化。預金全体では2010年度に2兆円の減少を見込んでいる。」としている⁷。なお、ゆうちょ銀行では再預入を促すために、2010年度中に現金、通常貯金、定額貯金満期金から3年以上定額貯金に預けた場合、店頭表示金利に年0.1%を上乗せするキャンペーンを実施している⁸。

⁶ 詳しくは宮本 佐知子「2011年に家計部門で大量の資金移動の可能性」野村資本市場研究所『野村資本市場クォーターリー』2011年冬号参照。

⁷ 「ゆうちょ銀上期、全都道府県で減」『ニッキン』2010/11/26。

⁸ http://www.jp-bank.japanpost.jp/campaign/teigaku/cpn_teigaku.html 参照。